

第2部

旅の後半は断崖に積み上げられたインカ時代の石組みが残るインカ道を歩きマチュピチュ遺跡へ。太陽の門(インティpunk 2700m)で初めてマチュピチュ遺跡を眼下にとらえた時は感激に思わず目頭が熱くなった方も。その日は遺跡の見学を行わず麓のマチュピチュ村へ下り、翌日の遺跡見学に備えました。

余談ですが、マチュピチュは空中都市と呼ばれますが実は標高 2500m、インカ帝国の都クスコ約 3400mに比べ 1000m近く低い所に有ります。と言う事はクスコで高山病かかってもマチュピチュへ向かえばおおかた治ってしまいます。



(マチュピチュ遺跡 5/18日)

○プユパタマルカ(入山3日目)

3日目は標高 3500m以上を歩く雲上の悠久トレッキング。と言ってもここは何時も午前快晴、午後ガスが上がり雲中になってしまいます。今日の見所は点在する遺跡群もさることながら、断崖を知的かつ綺麗に積み上げた石組みのインカ道(私見)。植物に覆われ見過ごしてしまう箇所も有りますが、見れば見るほどインカ人の芸術性を感じます。何故こんな山中稜線沿いに莫大な労力をかけ作道したのか、などと考えながら最後の幕営地プユパタマルカへ。



(プユパタマルカへ 5/17日)



○マチュピチュ遺跡(4日目)

連日、午前中を中心に快晴だった空模様が朝から重めに。マチュピチュの聖山サルカントイ山(6271m)も雲がかかり頂は見え隠れ。コック、ポーターに恒例の心付けを渡し、階段状の急坂を一気にウイニャワイナへ。ウイニャワイナとは周辺に自生する蘭の一種、ケチュア語で“いつまでも若く”の意味。地名はこの蘭が沢山あった事に由来するとか。ウイニャワイナから山腹をトラバース気味に進むこと約1時間半、漸く最終目的地マチュピチュの入口、太陽の門(インティブク)に到着。



(マチュピチュ遺跡・太陽の門 表裏5/18日)



○マチュピチュ遺跡見学

昨日で3泊4日のインカ道トレッキングを終え、今日はマチュピチュ遺跡の見学と正面に聳えるワイナピチュ山(2750m)登頂日。早朝5時半のバスでマチュピチュ村から遺跡へ上がり、見張り小屋、インティワナ、コンドルの神殿、太陽の神殿などを見学し、午前10時半いよいよワイナピチュ山へ向け登頂開始。高度差260m、断崖を登り詰め頂上に立ち眼下のマチュピチュ遺跡をはじめ360度の展望を楽しみました。

再び遺跡見学を楽しんだ後、サンクチュアリ・ロッジでバイキング昼食を取ってからバスでマチュピチュ村へ戻り、午後4時のビスタドーム号と車を使ってクスコへ戻りました。



(ワイナピチュ山頂上 5/19日)



○ナスカの地上絵

最終日はペルーの首都リマを早朝出発。太平洋岸沿いに車は南下シイカへ。ここから双発の飛行機でナスカの地上絵遊覧飛行へ出かけました。残念ながら筆者は座席の関係で空港待機。よって地上絵の写真は有りません。

次の天溪ツアーは6月19日発「花のスイス・アルプスハイキング9日間」、北米に移り7月9日発「花のカナディアンロッキー9日間」、そして再び欧州へ移り7月18日発「夏のアルプス・オートルート11日間」と続きます。

記 天溪 赤沼